



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和3年5月31日

6月号

横浜市立横浜深谷小学校

校長 角井 治朗

粘り強く取り組む子どもの姿を求めて

副校長 幸保 陽子

さわやかな季節となりました。子供たちは、休み時間を告げるチャイムの音とともに、喜び勇んで校庭に向かっています。それもそのはず、池にはたくさんのオタマジャクシやメダカがいます。草むらにはダンゴムシ、カナヘビ、バッタ。畑に向かうと、トマトやきゅうり、トウモロコシやジャガイモなどが青々と葉を伸ばしているのです。水やりをしている子どもたちは「大きくなってきたね」とつぶやき、植物の成長を心待ちにしているようです。中には、「教室で生き物を飼育したい」と水槽や虫かごを用意して、飼育の仕方を調べている子どももいます。自然豊かなこの学校は、子どもたちにとっては好奇心をくすぐるものの宝庫ようです。

さて、本校では、子どもたちに身に付けたい力として、特に「粘り強く取り組む力」に焦点を当てています。粘り強く取り組むようになるためには、「おもしろい」「楽しい」「わかった」という感動が大切だと思います。興味や関心をもったことから、「もっと知りたい」「追究したい」という気持ちが湧いてきて、次の活動へのエネルギーとなるのでしょう。

しかし、このような学びを続けていくためには、自分ひとりだけでは難しいかもしれません。そこには友達の存在が欠かせないと考えます。友達と一緒に考えたり、話し合ったりするなかで、自分を客観的に見つめたり、自分の考えを広げたり深めたりして、「もっと〇〇したい」「今度は違う方法で挑戦してみよう」が見つけれられるのだと考えます。学校という場は集団で学ぶことができる場です。友達という大切な存在を活かしながら、ともに粘り強く学んでいってほしいと思います。

本校では、昨年度に引き続き生活科と理科の学習を中心に授業研究を行っています。身近な内容を多く取り扱い、体験や実験・観察を伴うので興味や関心を抱いたり、楽しみながら取り組んだりしやすい教科だからです。これらの教科をきっかけに、子どもたちの主体的な学びや粘り強い取組につなげていきたいと考えています。私たち教職員がチームとなって学び合っていることが、授業に活かされ、子どもたちの育ちにつながっていくことを目指しています。子どもたちが「もっと〇〇したい」と自分の課題に向かって力強く踏み出していけるように、まず私たち教職員が、日々の授業を大切に、粘り強く取り組んでいきたいと思っています。